インタビュー項目

名前	吉岡　友美
役職	田端消防分団長（歴 23 年） 役場近くで焼き肉店を営む
年齢	４３歳
活動内容	田端消防分団は現在１６名（欠員４名）で活動をしています。それぞれ、指揮、指揮補助、ホース部長、無線係などの役職があります。主な活動は、地域の防災広報や防災訓練、消防基礎訓練等、災害に適した訓練、実践的訓練を実施しています。令和７年度からはより実践的な訓練を実施する予定です。定例的に月に２回、消火栓や機材の点検、消防車の動作確認を兼ねて集まり、活動をしています。 田端消防分団では、【スマート入団】制度を導入しています。「消防団への一歩を踏み出しにくい」とのお声からきっかけ作りとして、この制度を新設しました。１～２年の体験期間を経て、消防分団のことや活動を知ってもらい、入団の判断をしてもらいます。この期間にやりがいがある、面白いと感じていただければと思います。 実際の災害時は、災害アプリで招集がかかります。連絡があってから約４～５分で出動します。この招集から出動までの円滑な動きはこれまでの訓練による成果です。水害の際は、事前に準備している土のうを地域住民の方へ声掛けし、配布しています。過去にはボートを出して救助活動をしたこともあります。 令和６年６月に発生した一之宮の火災では、招集がかかる前に煙を見て団員が消防小屋に集まりました。 それぞれ時代に沿った工夫を行い、活動をしています。

消防団に入ったきっかけ	２３年前に青森県から鞄一つ持って、何も知らない世界に飛び込んできました。地域と早く密着できるよう、地域に早く馴染めるようにとの思いから消防分団に入団しました。 消防分団について、元々興味はあったのですが、青森県にいた時は関わりがありませんでした。寒川町へ越してきて、みんなが頑張っている姿を見ていたのと、地域の力になれるのだったらとの思いがあり一歩を踏み出しました。 またお義父さんから、「地域に密着するためには、消防団に入団すればいいと思うよ。」と助言をいただいたのもきっかけの一つです。
消防分団の魅力	消防活動以外にも相談できる関係性が築けています。日々の助け合いが多く、相互補完的な関係があります。２３年経った今でも「入っていてよかった！」と思います。 住民からは文句や苦情を受けたことがありません。地域の方は消防分団経験者が多いことから、感謝されることの方が多いです。そのため、これまでの歴史をここで途切れさせてしまうのはもったいないと感じます。 このつながりの面白さは、入団してわかる面白さ、楽しさかもしれません。
印象に残っていること	年に数回消防フェアが開催され、そこで子どもたちに防火服の着用やホースの体験、写真撮影を行っています。体験後の子ども達の喜び、楽しさ、笑顔がとても印象に残っています。 能登半島地震の際、家が倒壊しその下敷きになった息子を助けることが出来ず、そのまま看取った話を聞いて、とても切なく思いました。身近にあるもの（車搭載のジャッキ、てこの原理を使えるもの等）を利用すれば助けられる可能性はあったかもしれない…。 知識があれば助けられたかもしれないと思っています。行動することは難しいことではありません。知っているか知らないかが大きく状況を左右させます。
消防分団のつながり	活動において、チームワークが求められます。災害時の「いざ」という時に、実際に助け合う熱い繋がりがあります。 普段は和気あいあいとしていますが、いざという時に強い絆が発揮します。

自治会に望むもの	現在、消防分団員が少なくなっています。地元企業の方に１～２年の短い期間でも一緒に活動をしてほしいです。「一緒に地域を守る」ことに対して自治会・地元企業からの力を貸してほしく思います。災害時、知識があればその人や周りの力になります。 救助レベルを地域全体で上げていき、少しでも救助できる体制を整えていきたいです。 経験者が増えればできることが増えます。今はいないですが、過去には女性消防団員もいました。災害時だけでなく、普段の生活にも役立つ知識を一緒に身につける仲間を増やしていきたいです。